

学部・研究科等の現況調査表

教 育

平成22年6月

富山大学

目 次

3. 人間発達科学部	3-1
7. 生命融合科学教育部	7-1
14. 芸術文化学部	14-1

3. 人間発達科学部

Ⅲ 質の向上度の判断	・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 - 2
------------	------------------------

Ⅲ 質の向上度の判断

①事例1「1年生対象の「学級担任論」と4年次対象の「教員実地研究」の設置等による学校現場体験の機会増大」(分析項目Ⅱ)

(質の向上があったと判断する取組)

人間発達科学部においては、1年生対象の「学級担任論」を新設した。これは、学生が特定の小学校で毎週1回、担任を補助しつつ子どもたちと関わり、大学教員がこれをサポートする授業である。これに加え、教育学部で開設されていた「子どもとのふれあい体験」を新学部の講義体系に組み込むなどにより、学部学生が1年次から学校現場に触れることのできる体制を整備した。また、4年生対象の「教員実地研究」では、教職特任教授や県教委派遣講師による講義と演習をミックスし、学校現場で求められる教員像や児童・生徒との関係作りなど、実践的な知識・技術の向上を目指している。このように、入学早々に学校現場に触れさせ、他方、卒業年次に現場についてあらためて考える機会を与えたことで、学校教員へのインセンティブが高まり、本学部第1期生における教員採用試験出願者数と合格者数の上昇という成果をもたらした(資料1)。

資料1：教員免許取得者数の維持、教員採用試験出願者数及び合格者数の上昇

富山県教員採用試験の受験率と合格者(人間発達科学部)

	免許取得者(人)	出願者(人)	受験率(%)	合格者(人)	合格率(%)
教育学部： (H20年受験)	137	26	19.0	9	34.6
人間発達科学部： (H21年受験)	123	62	50.4	24	38.7

(注) 合格率は、合格者/出願者×100

合格者24名中には教育学部・教育学研究科の学生3名を含む。

表によると、平成21年度卒業の人間発達科学部第1期生のうち、教員免許取得者(教員免許状希望者)は123名(全体の66.8%)であった。これは教育学部の最終年度(教員免許状取得が学校教育教員養成課程の卒業要件)の137名(81.5%)には及ばないが、一般学部としては高い数値を示している。しかも、取得者のうち教員採用試験に出願した者は62名で、教育学部時代の26名を大きく上回り、この結果、正規合格者数は9名から24名へと大幅に上昇した。

7. 生命融合科学教育部

- II 分析項目ごとの水準の判断・・・7-2
- 分析項目 V 進路・就職の状況・・・7-2

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目V 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点5-1 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

平成18年度に大学院生命融合科学教育部が発足以来、平成21年度には4年制の認知情動・脳科学専攻からも初めて博士課程修了者が出たことにより全専攻で修了者を輩出した。

本教育部を修了した学生は、当初の関係者の期待通り高度医療専門機関、企業の研究所や大学教員に職を得ており、教育研究者の育成の機関としての期待を十分に担ったものと評価できる。また、アメリカの大学にもポスドクとして更に研究者として研鑽を積む人材も輩出した。医療関係や製薬会社に就職した修了生は、自らの専門性に加え、本教育部で学んだ他専門分野の成果を生かしながら高度医療関連分野で活躍している。(資料5-1-1)

これらのことから当初関係者から期待された医療、福祉、創薬の分野で高齢化福祉、高度医療の問題解決のできる人材となり、社会、高度医療関連分野で貢献している。

(資料5-1-1：業種別就職状況)

就職先業種等	平成20年度 修了者数：9人	平成21年度 修了者数：9人
教育機関（ポスドク）	2	1
教育機関（大学教員）	1	
製薬会社	1	
高度工業製品製造業	1	1
その他	4	7

※その他は社会人、帰国した外国人留学生。

観点5-2 関係者からの評価

(観点に係る状況)

学生の評価：

修了者による評価に関するアンケートの結果、本教育部を希望した理由の中で「教員が魅力的であった」というのが最も多かった。また、本教育部の自慢出来るところにも「教員が有名であった」、「教員と学生の交流が深かった」、「教員から多くのことを学んだ」との回答が最も多く本教育部の教員の質の高さを示している。ただ、修了生の本教育部に対する更なる期待は、学生の就職支援と本教育部の社会に対する一層のPRと考えている点であった。「生命融合科学教育部を広く知って欲しい」、「就職支援」に関する要望等は今後の課題である。(別添資料5-2-1)

就職先の評価：

就職先関係者による評価に関するアンケートの結果、知識については充分身につけていると評価が高い。また、技能については倫理を身につけ、論理的であり、種々の問題を解決する能力が十分であると評価されている。指導性や発表能力等についてもほぼ十分であると評価されている。態度についての回答の殆どは十分であるとの評価を受けていることから、全体としても、「十分である」が6～7割、「まあまあ十分である」が3～4割であり、就職先の期待に対し満足して戴いていると考えられる。(別添資料5-2-2)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある

(判断理由)

- 1) 平成 18 年度に大学院生命融合科学教育部が発足以来、平成 21 年度には認知情動・脳科学専攻からも初めて博士課程修了者が出たことにより全専攻で修了者を輩出した。
- 2) 各専攻修了者は、研究者を始め専門的な分野に就職した。
- 3) 修了者による評価に関するアンケートの項目の中で、学生は「教員の知名度」によって本教育部を選び、当初関係機関から期待された、研究者、高度医療や技術者に必要な資質を養ったことは下記の就職先の評価からも伺える。学生自身は「教員との深い交流」、「授業で学んだことが現在の仕事に生かしている」、「教員から多くのことを学んだ」、「友人が出来た」等満足した評価をしている。一方、本教育部に望むことは「就職支援」および「当該博士課程の PR」であると答えている。
- 4) 就職先の評価は、知識、技能、態度の各項目について「十分である」、「まあまあ十分である」が殆どで概ね高く評価されている。

以上のことから、期待される水準にあると判断した。

14. 芸術文化学部

- II 分析項目ごとの水準の判断・・・14－2
- 分析項目V 進路・就職の状況・・・14－2

Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点5-1 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

本学部第一期生の就職内定率(就職希望者における就職内定率)は、94.3%となった。平成21年度2月1日時点での全国就職内定率は約80%と報告されているが、それを上回った結果となっている。これは、一昨年に発生した世界同時不況の影響等による厳しい雇用情勢の中、就職内定取得に困難な状況が予測されたため、学生に対する就職活動支援を強化しこの就職率を達成することができた。また、卒業生数における就職者数の割合は72.8%となっている。平成21年度学校基本調査によると芸術系学部等の同割合は約45%であるので、本学部の就職率は高いといえる。なお、大学院等への進学者数は11名となっている。

地域別就職状況に関しては、北陸3県の合計が全体の51%を占めているが、人材供給という面から地域貢献がある程度達成されているといえる。また、産業別にみると、専門技術サービスが約14%、情報通信業が約11%、その他製造業が7%となっており、幅広い業種へ人材を供給した。(資料5-1-1、5-1-2、5-1-3)

資料5-1-1 進路希望状況

進路希望分類	就職	進学	その他	合計
人数	88	12	14	114
割合(%)	77.2	10.5	12.3	100

資料5-1-2 進路状況(H22.3.31現在)

決定進路分類	就職	進学	その他	合計
人数	83	11	20	114
希望者数における割合(%)	94.3	91.7	-	-

資料5-1-3 地区別・産業別就職状況

